

幼児教育長期派遣通信 3学期号

発行 令和2年3月18日

廿日市市立廿日市小学校 伊藤 尚子（派遣園：学校法人有朋学園 かえで幼稚園）

1学期号、2学期号では園での研修から学んだことや小学校とのつながりについて紹介しました。3学期号では、4月から実施するスタートカリキュラムにどのような工夫をしたのかを紹介します。

1 3学期の研修内容

- (1) 園内研修…園児の学びや育ち・環境構成や保育者の援助の見取り 年長児クラス補助 園バス添乗 園内行事 父母の会対談 徳島職員研修 アプローチカリキュラム作成
- (2) 園外研修…所属校でのスタートカリキュラムに係る話し合い・準備、スタートカリキュラム作成、所属校での幼保小交流会、園所訪問（スタートカリキュラムの説明）等

2 実践を通して

◎所属校のスタートカリキュラム作成にあたり、4つのキーワードを大切にしました。

①安心

②つながり

③思いや願い

「緩やかだけど、^④手応えのある段差を感じられる接続」

「安心」のために4月の環境構成を工夫

①安心

②つながり

「人・もの・こと」(環境)を工夫し、児童と「人・もの・こと」をうまくつなげることで第1に安心をつくる。

人

- ・教師…児童の気持ちに寄り添った対応、情報共有、共感、笑顔
- ・複数体制（地域ボランティア、読書ボランティア）
- ・人間関係づくりの時間をとる（にこにこタイム、朝の会）、2、6年生との交流

もの

- ・にこにこタイムで、園所でやっていた遊びができるように用意する
- ・机や椅子の配置を工夫する（グループ机、円、座学等）
- ・動線や目の高さに配慮、視覚支援

こと

- ・幼児期の経験や児童の思いや願いをきっかけに小学校での生活や教科の学習が始まるようにする（生活科を中心とした学習を取り入れる）
- ・受容的な雰囲気づくり
- ・友達と共に考える機会を増やす

😊 安心をつくる時間「にこにこタイム」

①安心

②つながり

にこにこタイムは安心をつくる時間、園所での活動や経験を生かす時間。園所での遊びを新しい友達と楽しむ中で人間関係づくりをする。園所での経験と教科の学習をつなげる。

園所のように自由遊びの時間とクラス活動の時間で構成

自由遊びの時間

朝登校、自分の荷物を整理（6年生がサポート）→多目的室や教室で、園所でやっていた遊びを楽しむ
新しい友達や地域の方との人間関係づくり（地域、読書ボランティア）

その後

クラス活動の時間

連続した1時間目に朝の会
朝の会の中で、クラスみんなで園所でしたことのあるゲーム・歌・手遊び・読み聞かせ
クラスの友達や担任との人間関係づくり

※初めは自由遊びを多く取り入れる。また、園所でしていた遊びを取り入れる。児童の実態に合わせて徐々に時間を短くし、教科の学習につながる遊びを入れる。

※楽しい気持ちで1日がスタートするよう「朝の会」を工夫。園所でしたことのあるゲーム・歌・手遊びを出し合い、みんなでやってみる。徐々に教科につながるゲームや遊びを取り入れていく。

思いや願いを学習に生かす「わくわくタイム」

③思いや願い

②つながり

わくわくタイムは生活科を中心にして合科的・関連的に学習する時間

児童の何だろう？知りたいな？から始まり、児童の思いや願いの実現に向けた主体的な学習につながっていくように計画、児童の意識の流れを予想した単元構成

♥わくわくタイム

中単元「みんなで はてなを かいけつ」の展開（第1～3週）

生活科 単元名	活動	教科等(時数)
がっこうの ことが しりたいな	園所での経験を生かしながら教室や教室近くのはてなや学習に係わるはてなをみんなで解決していく。園所で親しんだ遊びや読み聞かせをきっかけに教科の学習を楽しみながら進める。	合科 生活(15分×4), 国語(15分×3), 書写(15分), 算数(15分, 30分),

- ・ 思いや願いから始まる学び
- ・ 日常生活から始まる学び
- ・ 知っていることをきっかけに始まる学び

児童が興味、自信をもって学習に取り組めるように工夫

★手応えを自信ややる気につなげる「ぐんぐんタイム」

④手応えのある段差

ぐんぐんタイムは教科等を中心とした学習の時間

入学当初の児童の学習に対する期待感を生かし、小学校ならではの教科の学習を早い時期から取り入れていく → 手応えを感じられるようにする

できた！もっとやってみたい！

※初めは、単元の始まりに、にこにこ、わくわくタイムと関連させたり、わくわくタイムと合科的な指導を行ったりして、にこにこ、わくわくタイムをきっかけに学習が始められるようにする

にこにこ、わくわくタイムで大切にしたい安心感や自信を土台に、主体的で自立した学びにつながるように計画

3 まとめ

私はこの1年、主体性に注目して園所と小学校のつながりを見てきました。園で主体的に遊ぶ子供たちの姿やさまざまな研修から、小学校での主体的な学びの作り方のヒントをもらいました。児童の安心をしっかりとつくっていくことがその後の児童の主体性につながる。児童が疑問をもつような環境の工夫や児童の思いや願いを生かすことで主体性を引き出せること。それらの学びをスタートカリキュラム等でしっかりと生かしていきたいと思えます。そして、主体性について考える中で1番感じたことは、主体的な児童の姿をつくるために1番大切なことは、「子供が主役」ということをいつも起点にするということです。児童の意識の流れに沿うこと、児童が1番輝くような方法を考えることの重要さに気付きました。「子供が主役」ということは、言葉でいうと当たり前のように感じますが、時間の制約や学習内容が決められている小学校では、意識して工夫しないとできないことだと思います。1番大事なことは子供一人一人が輝くこと、本当に子供が主役になっているかということのをいつも頭に入れて、4月からの実践に取り組んでいきたいと思えます。



乳幼児教育支援センターから

入学時の児童の発達や学びには個人差があり、それぞれの経験や幼児期の教育を考慮した指導が求められます。スタートカリキュラムは作って終わりではありません。4月以降は、小学校で児童が主体的に自己を発揮できているか、「子供の姿」をもとに、スタートカリキュラムを見直していきましょう。伊藤先生が研修で学んだことを生かして、今後さらにより実践を積まれることを期待しています。